



さて、あるパリサイ人が一緒に食事をしたいとイエスを招いたので、イエスはそのパリサイ人の家に入って食卓に着かれた。

すると見よ。その町に一人の罪深い女がいて、イエスがパリサイ人の家で食卓に着いておられることを知り、香油の入った石膏の壺を持って来た。



そしてうしろからイエスの足もとに近寄り、泣きながらイエスの足を涙でぬらし始め、髪の毛でぬぐい、その足に口づけして香油を塗った。

イエスを招いたパリサイ人はこれを見て、「この人がもし預言者だったら、自分にさわっている女がだれで、どんな女であるか知っているはずだ。この女は罪深いものだから」と心の中で思っていた。（ルカの福音書 7 章 36～39 節）



罪とは

今から約 2000 年前のこと、中東にイエス・キリストというお方がおられました。上のお話は、聖書の中に記されている、そのお方に関する実話です。イエス・キリストは当時、多くの病人を癒し、人々に神の国についてのお話をなされ、民衆の大きな注目を集めていました。

そのような中、地位と学識のあるパリサイ人シモンという人物が、主イエスのお話を聞くために食事に招き、主イエスは食卓に着かれました。すると、そこにある罪深い女の人が入って来て涙を流し始め、主イエスの足に口づけし続け、香油を塗り続けました。主イエスは、その女の人が罪赦された喜びと感謝ゆえにそのようにしていることを知っておられ、喜びをもって彼女の行為を受け入れておられました。しかし、パリサイ人のシモンは、女の人のおもいも、主イエスのおもいも理解できず、喜びと感謝の光景を罪深いものと捉え、冷ややかな目で見っていました。

さて、この光景の中で、だれが本当に罪深い者でしょうか？
女の人でしょうか？ 主イエスでしょうか？ パリサイ人シモンでしょうか？

罪とは

この女の人は実際に罪深い生き方をしていたようです。一方、パリサイ人シモンは、地位があり、学問があり、罪から離れることを心掛けている人物だったようです。

しかし、人間のこころの中は、人には分からないものです。

このお話の中で、最も邪悪で罪深いのは、明らかにシモンです。

そして、女の人も罪深いのですが、彼女はそれをこころから認め、悔い改め、イエス・キリストを信じて救いを求め、罪赦されていたのです。

彼女は主イエスの愛を知り、喜びと感謝を主イエスにささげていたのです。

シモンは、自分の罪深さに気付いていませんでした。ですから、一方的に女の人をさばいていました。それだけでなく、主イエスのことをも、さばいていたのです。

実は、本当にさばかれなくてはならないのは、自分であることに気付かないままにです。

自分の罪に気付かないということは、なんと恐ろしいことでしょうか！

そして、なんと罪深いことでしょうか。そして、なんと人に対して冷淡になることでしょうか。

そして、実は、私たち一人ひとりがシモンであることを、聖書は指摘しています。

「ですから、すべて他人をさばく者よ、あなたに弁解の余地はありません。

あなたは他人をさばくことで、自分自身にさばきを下しています。

さばくあなたが同じことを行っているからです。」(ローマ 2 章 1 節)

「すべての人は罪を犯して、神の栄光を受けることができず」

(ローマ 3 章 23 節)

「すべての者が離れて行き、だれもかれも無用の者となった。

善を行う者はいない。だれ一人いない。」(ローマ 3 章 12 節)



今、私たちのなすべきことは、自分の罪深さを認め、悔い改めることです。

では、私たちはいったい何の罪を犯しているのでしょうか？

私たちのこころの中をすべてご存じであられる、この世界の創造者・所有者・統治者

であられる神様を拒み、感謝もせず、喜びもしないという不敬の罪、冒瀆の罪を犯しています。

それは、シモンがイエス・キリストに対して取った態度そのものです。

そして、イエス・キリストこそ人となられた神なるお方だったのです。

聖書は、罪の人生の最終的結末が永遠の滅びであることを明言しています。

それは、肉体上の死後に、永遠のさばきの場所である地獄に入ることを意味しています。

地獄は、永遠の苦しみの場所であり、希望も喜びも全くない所です。

それに対して、自分の罪を認め、悔い改め、神様に立ち返り、イエス・キリストを信じ、

神様に感謝と喜びをささげ、神様に対して生きていく人生は永遠のいのちであり、

肉体上の死後も、天国において永続するいのちであることを聖書は明言しています。

イエス・キリストの福音

神様は、この世界を創造された時、人間をご自身の似姿として創造されたことが聖書には記されています。神様にとって人間は我が子のような存在であり、愛の対象であり、本来は喜びの対象だったはずです。ご自身の素晴らしさ、栄光を現す存在だったはずです。

しかし、人類の歴史、また、現代社会を見て人間はどのように生きているのでしょうか？神様が聖く、正しく、愛なる方であり、真実、誠実、平和、調和なるお方であられるように、人間は生きているのでしょうか？神様が永遠に価値ある方であられるように、人間は永遠に価値ある生き方をしているのでしょうか？

人類の歴史、現代社会は、人間のことをこう証言しています。戦争、核兵器、環境破壊、利己追求、競争社会、貧富の差、殺人、盗み、詐欺、不道德、冷淡・・・とても、永遠に価値ある生き方をしているとも、神様の素晴らしさを現わしているとも思えません。なぜこうなったのでしょうか？それは神様を拒みつづけ、神様から離れつづけ、その罪に気付かずにいるからです。今こそ、神様に対する罪に気づき、悔い改めるべき時です。心から罪を悔い改め、神様を心の中心に信じ受け入れ、救いを求める時に、罪の赦し、罪深い歩みからの救い、地獄からの救い、永遠のいのちを得ることを聖書は明言しています。

そして、その救いを私たちにもたすために、神の御子イエス・キリストが人となられて、天からこの世に来てくださり、十字架に架かってくださったことが聖書に記されています。主イエスは、私たち一人ひとりの罪をすべて引き受けてくださり、十字架において身代わりに罰を受けてくださったのです。本来であれば、私たちが受けなくてはならない罰だったのです。紀元30年、エルサレム郊外のゴルゴタの丘で、主イエスは両手両足を十字架に釘付けにされ、民衆の前にさらし者にされ、苦しみ抜かれ、「完了した」と言って死なれました。このように私たちを救うための愛のみわざを成し遂げられた主イエスを、父である神は死後三日目に復活させ、すべての人にとっての救い主としての権威を与えられました。

今、罪を悔い改め、復活され天で生きておられるイエス・キリストを救い主として心の中に信じ受け入れる時、その人は罪赦され、救いを受けるのです。そして、冒頭の罪赦された女の人のように、主イエスに感謝と喜びと愛をささげるものとされるのです。それは素晴らしい価値ある人生です。そして、天国の希望とともに生き、やがて天国に入ることになるのです。このような素晴らしい救いを受ける方が一人でも多く起こされますように神様が願っておられます。私たちの教会でもお祈りしております。



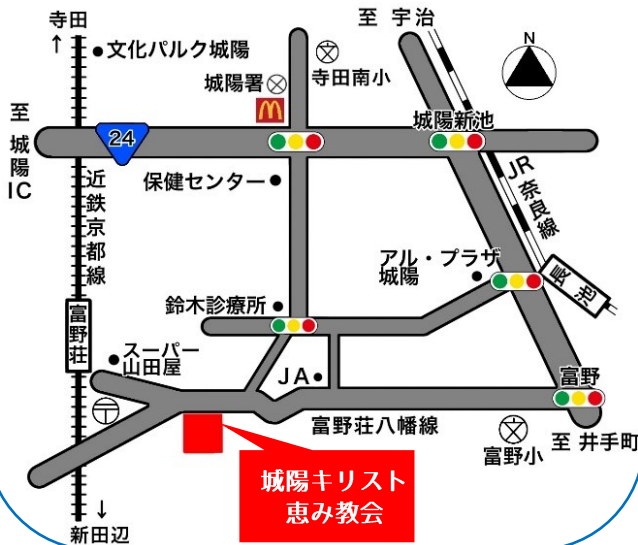
特別伝道集会のご案内

日時：5月14日(土) 午後 7:30～
15日(日) 午前 10:30～
午後 3:30～
16日(月) 午前 10:30～
場所：城陽キリスト恵み教会

聖書の語る罪のさばきと、イエス・キリストによる救いを
わかりやすくお伝えします。参加は無料です。
皆様のお越しを心よりお待ちしております。

アクセス

近鉄富野荘駅徒歩4分



定例集会

日曜日 9:00～ 日曜学校(子ども礼拝)
10:30～ 礼拝
15:30～ 聖書学び会

水曜日 10:00～ 婦人会
19:30～ 祈り会

土曜日 19:30～ 聖書学び会

いずれの集会も参加無料です。
駐車場、託児の用意もあります。

城陽キリスト恵み教会

牧師：増山康友 責任者：依田朋之

〒610-0111 京都府城陽市富野西垣内 33 - 123

TEL：(0774) 29-5215

メール：joyo.cgc@gmail.com

▼詳しくは当教会のホームページをご確認ください。

城陽キリスト恵み教会

検索



▲教会ホームページ QR コード

当教会は、聖書を神様のことばとして信じ、学んでいる教会です。エホバの証人(ものみの塔)、モルモン教(末日聖徒イエスキリスト教会)、統一協会とは関係がありません。